

# 留萌港を活用した留萌産トドマツ材の移輸出に向けた取組について

北海道留萌振興局森林室

## ■留萌材の販路拡大の取組

留萌流域の人工林の4分の3はトドマツで占められています。利用対象となる間伐材や主伐材の木材資源が充実し利用期を迎え、今後、森林の適切な整備を行うことにより、木材の生産量は増加することが見込まれています。

留萌流域では、天然林を中心とした木材生産の最盛期に木材加工場が50近くありましたが、現在は3工場となり、地元での木材消費は5%に留まり、大半は上川や宗谷に輸送費をかけて運ばれています。

このように、留萌流域は、林業生産活動を展開するうえで厳しい環境にあります。貴重な人工林資源を生かしていくためには、間伐を適期に行うとともに、ロットをまとめるなどして、質のそろった材を安定的に供給していくことが重要となっています。

このようなことから、地域の森林・林業関係団体等を構成員とする留萌流域森林・林業活性化協議会では、平成25年5月に「留萌材の販路拡大のための実行計画」を策定し、留萌産トドマツの販路拡大のために様々な取組を進めています。

## ■留萌港等からの移輸出に関する情報収集

留萌地域は日本海側拠点化形成促進港である留萌港を活用した木材移輸出が可能であるという利点から、販路拡大の取組の一つとして、木材の集荷方法や移輸出先の木材需要状況などの情報収集を行っています。

輸出に関しては、ロシア材の輸出税率の引き上げなどの影響を受け、日本から中国や韓国への原木の輸出が増加傾向が見られますが、今のところ留萌港からの輸出の実績はありません。

また、移出に関しては、国内産材の合板生産量に増加傾向が見られ、留萌港から秋田や島根に合板用としてカラマツが運ばれています。平成25年はカラマツの品不足により、トドマツも移出されましたが、本格的な動きとはなっていないようです。

いずれにしろ、今後、留萌港からのトドマツ移輸出の需要が高まる可能性が高いといえます。

## ■留萌産トドマツのトライアル輸出

移輸出への期待が高まる中、北海道森林組合連合会と商社の間で、トドマツを留萌港から韓国へ輸出する話が持ち上がり、平成25年12月に、韓国での留萌材

の品質確認を行うため、サンプルとしてコンテナ利用が可能な苫小牧港から25m<sup>3</sup>の留萌産トドマツ人工林材（道有林材）を光陽港へ輸出しました。

その結果、品質に問題はない旨の回答があり、今後の留萌港からの輸出に向け、本格的な動きが期待されます。

## ■今後の留萌港からの移輸出について

船を使った移輸出は、一度に多くの木材を集荷する必要がありますが、木材の長期間の放置や夏場の集荷は材が傷みやすいため、限られた時期と期間での集荷が必要です。

また、需要者は安定供給を求めており、これに対応するためには、森林組合、道有林、国有林といった山側の連携が必要といえます。

一方、移輸出により需要を拡大した場合、既存の木材需要との競合が課題となることから、需給バランスを考えながら取組を進める必要があります。

これらの課題に対応するため、留萌流域森林・林業活性化協議会では、計画の実行管理を行う分科会を設置し、平成26年1月に行われた検討会では、港湾関係者である留萌開発建設部にオブザーバーとして参加していただき、留萌港から韓国への留萌材の輸出という新たな動きについて、情報共有を行い地域で協力して取組を進めることを確認しました。

留萌港の利活用は地域振興の大きなテーマであることから、山側として木材の安定供給体制づくりを行い、港湾関係者と連携しながら、留萌材の新たな販路拡大に取り組んでいます。



留萌港にはい積みされた韓国向け留萌産トドマツ材